

東海中高の20年とこれから

2017年1月
東海中高 顧問
大野聡生

東海中高ワンダーフォーゲル部顧問を務めて20年。予想外の急展開。良い機会なので、この20年を振り返ってみた。(※2007年寄稿分を基に増補 年号は年度)

1997 1名からのスタート 130cm

20年前の赴任とともに顧問に就任。部員はなんと1人だけ、かつ彼も私も「ワンゲルって何やるの??」という感じだった。そこで、自分が学生時代やってきたクラブの感覚から「中高生の時にしか味わえない“楽しみ”“感動”を体験させたい」という思いが芽生えてきた。しかし“ワンゲルのお楽しみ軽登山”が続くばかりで、なかなかその道筋も見出せず時が経った。

半年後、楽しく山登り・キャンプをしていたことで増え始めた部員を引き連れ、30年来ワンゲル部顧問をやってこられた岡野先生(愛知OLC)の誘いで、OL大会に参加した。もちろん私自身も初心者。しかし2・3度と参加するうちになんとなく楽しみ方もわかり、OLが生涯スポーツであることや、限りなく“楽しみ”を求めていける競技であることも体感した。

1998 岡野先生指導の下 140cm

登山やキャンプに行く時にもゲームを手放さない彼らの姿に馴染めなかった私は、ワンゲル部でOLに本気で取り組んで行くことによって「みんなで日常的に地道にトレーニングする→大会参加して他校(部外者)と競う楽しさを味わう→日本一や世界一になりたいと思うほど打ち込む→将来困難に打ち克って生きて行けるように……」と“わかりやすい”道筋を考えた。

そして同年代の参加者が少ないこともあって、多くの者が代わる代わる入賞し、最初の“楽しみ”を感じる事が運良くできた。それからは学校近くの市街地図を使って走ったり、教室で地図を読む練習をするなど、できることを少しずつやってきた。また技術指導はすべて岡野先生に伝授していた。それを上手く練習で展開できず、時に声を荒げることもしばしば……。

1999 愛知OLC合同合宿 145cm

岡野先生を通じ、愛知OLC主催の東日本大会バスツアーに参加させてもらった。また愛知県高校中学選手権(岡野先生が実行委員長を務め、多くの愛

知OLCの皆さんが運営をしてくださって2008年19回まで続いた)が創設され、それらをきっかけに、生徒と地域クラブの繋がりができ始めた。孫のように面倒を見てもらい、毎週の大会への参加が気楽にできる環境になった。

2000 中1から高2まで 150cm

中1入部して、中学3年間をやり終えた初の学年。試行錯誤を共にしてきた学年。近藤友洋(東工大OLT)を中心に中途入部者ともよくまとまり、高校でも引き続き活動することとなった。「中1から高2まで」やり続けるスタイルを創りあげた。成長の差が心配されたが、逆にこれがうまく作用することにもなっていた。

2001 岡本・宮地の担任 155.9cm

私が中1を初めて担任することに。ちょうど2005年に愛知で世界選手権が開催されることも決まったばかり。それに関連して多くの大会・イベントが続くという。これまでの4年である程度の道ができ始めていた。そして、この中1達が高2の時に世界選手権。ひよっとしたら地元開催の大会に出られるかも…と淡い夢を抱いた。自分のクラスには岡本と宮地がいた。彼らがいなければ今のワンゲル部はない。そしてih参加3日目、例の“事件”勃発。

2002 先輩主催大会開始 163.8cm

先に紹介した近藤たちが5年間の活動の締めくくりとして、後輩のために練習会を自主的に企画した。岡野先生にイチから教わり、定光寺で開催。無事成し遂げ、その勢いでihに出場。ih参加4日目にして、東海として初めてMEに杉本知駿(立命館大OLA)が出場し見事8位。MSでは近藤が優勝。OLに力を入れ始め、いつのころからか関東の学校を意識しはじめていて、その結果が出た時、彼らが真に「もう少し頑張れば追いつける!」と思えるようになったのではない。

2003 関東に勝ち日本一! 172.9cm

そのような気持ちを受けたつもりで、年度当初に「関東に勝って、日本一になる!」と大きな目標を掲げ、計19大会(02年から運用していた部内ランキング制度も適用)、2練習会、2合宿に参加「させて」きた。特に後半は、大会や合宿を通じて知り合えたエリートの方々に大会毎にアドバイスを頂いたり、初めて一般の参加を仰ぎ部活主体

の大会をなんとか運営しきったり、CC7で完走&48位となったり、全日本リレーに選出されたり、トリムを作成したりと多くの者に自信がついたようだった。結果、山倉貴之が見事選手権制覇。そしてこの山倉優勝の陰には、加藤峻・加藤憲ら同級生、そして中3世代(宮地・岡本・戸田・前澤ら)の押し上げがあったことは印象的であり忘れられない。ih後のJWOC予選で宮地が“中学生”として日本代表に推薦されたことをここに記し明らかにしておく。(※事情により辞退したが)

2004 CC7で19位! 181.3cm

年間20回もの大会参加で量をこなしてきていたところに、前年の村越さんの校内講演に続き、松澤さんや元世界選手権者のトーマスビューラー氏の講演を企画実現できた。また安齋さん(三河OLC)には毎週お仕事後にコーチに来て頂いていた。質がグッと上がった一年であった。そのおかげで、7名だけでなく、他全員の頑張りもあり、CC7で19位。中高生としてかなりアピールでき、自信もついた。

2005 WOC 愛知県開催 183.5cm

そして、8泊9日(半分はテント泊)の世界選手権役員補助&大会参加。眼前で見た世界が、年度末のihにつながり、見事高校団体初制覇。またトレイルO役員を機に実力をつけた高1伴毅が全日本トレイルOで第2位の快挙。

2006 JWOC 代表輩出 185.7cm

そして、ついに“予定”より10年程早く世界選手権出場者(岡本・伴)が出た。前年出場の宇野夏樹君に刺激を受けたのは言うまでもないが、OBを含め学校もこの10年間の蓄積でバックアップ体制ができていた。

2007 地域クラブとして… 190cm!?

岡野先生の御退職、私の中学校復帰(中1から高3の持ち上がり終了)、我が娘の小学校入学などを機に、OLC東海の地域クラブとしての活動強化と、個人的クラブ(名古屋市内でキッズOなどを展開 ONOLK)の設立を決めた。学校クラブは伝統的活動を重視維持予定。いままでの縋り交ぜ状態からの脱却を図りたいと考えた。

※ここまでの各見出しの「身長」は、某OBの小中高時の成長過程です。出会った頃は私よりも小さく、森の中で3時間も彷徨っていたのが懐かしいです。共に成長しました。その後彼を越す山田晋太郎が出現します。

2008 JWOC帯同・おに部長

担任が無い年だったので、7月のスウェーデンJWOCに自費帯同。高3堀田、OB岡本、麻布野本選手、名大松井選手他の活躍と、日本代表のあり方を目の当たりにした。また、何よりも尾上さん藤井さんに多く教えて頂いた。帰国後、名城公園3000m計測を開始。継続的に体力向上意識が持てるよう仕向けた。その後「鬼神」とも言われるまでに成長した深田恒が部長を務めた年。この年から顕著にみられる、「強くなっていく東海」は、彼がそれまでの先輩が築いた礎をさらにしっかり固めたと言っても過言ではない。また一方、保護者の支援体制を固めてくださった御母堂にも、遅きに失して悔いるばかりだが、改めて感謝を述べたい。合掌

2009 部員50名時代・CC7 9位

入部者が増えて、ついに総勢50名を突破。登山は残念ながら休眠状態に。反して、OB現役の力が結集したCC7では初の一桁9位に。前年、尾崎・野本擁する麻布に持っていかれたih高校団体は、この年矢板で取り戻し(橋本・深田・鈴木周)、2014年まで5連覇。

2010 アジア選手権・千種map

岐阜・愛知でのアジア選手権にフル参加。OB堀田(東大)が全日本M20Eで初優勝。公認大会への気持ちが高まった。そして、宮西・橋本ら深田世代を中心とした自前地図作成が進み、学校近隣の千種公園・茶屋ヶ坂公園のOmapが完成。日常練習改革年となった。

2011 全日本リレー愛知総合優勝

前年度3月インターハイが延期になり、5月に富士で全日本併設開催。11月長野松本全日本リレーでは、愛知の幅広い世代の力が発揮され、総合優勝。

2012 CC7 6位・高校「部」昇格

前年度3月駒ヶ根ihは積雪により中止。結果2012年度からは9月に。宇根峠・七国峠で開催されたが、個人は中高ともに惨敗。悔しさをばねに広島CC7(光川・坂野・種市・平原・長谷川・角田・宮西)では、有力チーム参加が少なかったところをずるずると6位に入る快挙! 4走平原が一時トップにたつなどOB含め総合力が出てきた。その中心人物宮西が春インカレリレーで1年生にして東北大1走で優勝に貢献した。東海OB初のインカレ制覇。

2013 高2稲森全日本制覇

11月東海クラブカップリレーを初制覇した種市・稲森・長谷川を中心に挑んだ12月滋賀希望が丘CC7では、高1・2年のみで5位入賞の快挙!(種市・大久保・二村・竹本・三浦・稲森・長谷川)特に長谷川のアンカーの勝負強さはここ

に極まれり。圧巻だった。同12月東京全日本リレーMJでも、深田の遅れを稲森・長谷川で挽回し優勝。創設されたXJ制覇は逃した(和佐田・椎名・野田)。

2014年4月の菅平全日本M20Eで高2年度の稲森が同級生長谷川を12秒抑えて初制覇(ちなみに5分30秒後には種市が8位に食い込み、「黄金世代」と称された)。半年前12月に香港遠征に挑むなどの積極的な取組みが花開いた。

2014 堀田日本代表・OB会発足

稲森の快進撃は続き、7月ブルガリアJWOCでの活躍、8月日光ih個人戦圧勝は記憶に新しい。また稲森作「名古屋東稜」と、名大細川さん作「平和公園」のmap相互利用提携締結。夏休み「朝練」(熱中症を避けるための現地集合)の練習メニューが拡がった。中2祖父江のih中学個人優勝もその成果か。

堀田のシニア日本代表選出は重要な転換点。また東海学園公認OB会が創部53年目にして発足したことも重要。翌年の御在所山頂(集合)総会に向けて、登山の復活計画・下見にいそしんだ。

2015 稲森インカレ個人初制覇

横国大入学半年にして稲森の快挙。富士見高原に行けなかったのは悔やまれる(ih2016の下見という意味でも)。そして個人的には、夏の立山登山後に頸椎ヘルニア発症(30年間の運動し過ぎの代償...)という一大事発生。

第1回アジアジュニアユース大会(香港)で、椎名・和佐田が金メダル獲得。

熱望していた「アジア→世界」の道を拓いた。また、和佐田らが愛知OLCから原図を借り受け、名城公園のJSSOM化を完遂。岡崎全日本大会に挑む後半は、充実していた。

2016 麻布! ih団体・新顧問

「ih2016団体戦奪還」のみを頭にに入れて過ごした12カ月——。結果は2年連続の惜敗…。そして昨年の桐朋に続き、今年は同じく関東勢「麻布」に。他件も含め、今年は「麻布」の年に。中学は創設以来の見事6連覇。選手の努力はあるが、そもそもの枠組みを再構築する必要を感じた一年。そして、実際に校内外へ動きを取り始めた一年。

今日執筆最後の日は、東京に自費出

張して、「JOAコースプランニング&リスクマネジメント講習会」に参加。東大OLK部室をのぞくこともでき、充実した講習内容とともに満足。また、休憩時間に愛知県協会強化事業の打合せをOB二村と愛知県コーチの松澤さんとmailでこなし。そして帰りの新幹線では、アドベントカレンダー記事をまとめて拝読し、自分の「熱量」も自己点検しつつ帰途についた。顧問就任当初から思い描いている、「セッター」としての役割に、本格的に入ることができそうな予感がした一日となった。気付けば、バレーボール人生18年よりも、オリエンテーリング人生が20年と上回っている。現状をたどって言うなら「20ポ目、ミス率10%」。ただ巡航は過去90台の時期が一瞬あったと思うが、今は115くらいか。

新顧問の就任、夏の富士OB合宿旅行、上林さんに真似たアルバムの上上げ、2度目のハチ騒動、10月愛知県強化事業合宿夜の世界選手権報告会で聞いた羽鳥先輩からの激励のお言葉(新&異種目への積極的取組、トレーニングの意義や可能性)など。来年以降、まだまだ前向きにやれそうである。

2017~ 酉年 新生“渡り鳥”へ



酉年の今年。“渡り鳥”を意味するワングル部の今後は? どうなるか、どうするか——。副顧問・新顧問への体制移行、愛知県協会の種々の仕事に時間を割きたい。そして競技委員として、M18の復権(全日本ミドルE権取得可能制度改革等)を期して中高生の実態をJOAに正確に伝えたい。また、OB諸君のOLC東海でのCC7チーム結成出場もけし掛けたい。個人的目標は全日本リレー愛知県代表。前顧問岡野先生の最後10年の過ごされ方を範とし、今後の教員生活を送っていく所存。

伝統ある東海ワングル部を引継げたことに喜びを感じています。ここまで長い間ありがとうございました。

(東海中高顧問 大野聡生)

